

上市町学校教育審議会（第6回）

- 1 日 時 令和6年1月18日（木） 19時00分～20時10分
- 2 場 所 上市町役場 4階大ホール
- 3 審議委員 19名
- 4 出 席 小竹副町長、牧田教育長、平井事務局長、
平井教七次長
〔 スタッフ 教委：藤田局長代理、森田局長代理 〕
- 5 概 要 次のとおり

(1) 開会

(2) 会長あいさつ

(3) 議事

- ・副町長より参考資料「上市町内保育所への入所見込みについて」説明
上市保育所園が令和6年3月末で保育業務を止めるが、待機児童は発生しないのでご安心いただきたい。
- ・答申（案）の検討について（資料 No. 1）
平井教育委員会事務局長より資料に基づき説明
「1 小学校の適正規模に関する基本的な考え方」の2行目の「時間で30分から40分が望ましい」を「30分から40分以内」としてはどうかとの意見をいただいた。通学時間については歩く速度が年齢によって差もあることから、時間は目安とし「以内」ではなく「程度」としたい。
「2 小学校の規模適正化に向けた学校統廃合の具体的な枠組み」の3点目に「今後も複式学級の編制」とあるが、事前配布のものは誤字で「編成」としていたので、訂正した。
「3 学校統廃合に係る教育環境の整備や通学手段等に関する事項」の4点目に、「豊かな自然を持つ上市らしい」とあったものを「豊かな自然・伝統文化・地域産業等の資源を生かした上市らしい」としてはどうかとの意見があったので、そのような形とした。
次に、審議会の中で先行統合も含め、保護者や子どもたちの不安解消としての交流の充実などの意見もいただいたことから、「学校の統廃合に向けた学校間交流の充実を図るなど、統合後も子どもたちが安心して学べるよう努めてもらいたい」という一文を追加した。

会長

皆様からの意見を修正・追加していただいた。よろしければ拍手で承認をいただきたい。

— 承認 —

(4) 連絡事項

- ・義務教育学校での教育内容及び新校舎整備への意見について（資料 No. 2）

平井教育委員会事務局長より資料に基づき報告

「義務教育学校の制度を活かし進めてもらいたい教育内容」で主なものを挙げる。「ただ先生から教えられるものを覚えるのではなく、自分で考える力を育てる教育」「可能性を引き出す授業スタイル」の他、小学校の専科教諭の配置拡大、同学年及び異学年との交流の機会、教育課程の特例を生かした魅力的で特色ある教育、9年間の切れ目ない支援体制、といった意見をいただいている。

次に「新校舎の整備について」の中では、「まちづくりと一体的に考え、道路、施設等インフラ整備を思い切った形で実施してはどうか」、「災害時の避難施設としての機能整備」「剣岳を眺望できる場所を」「広々とした空間でのびのびと学べる校舎」といった意見があった。この他「安全面からバスや自家用車と子どもたちの動線を別にしてほしい」「町民同士の交流が深まるような施設には賛同するが、防犯対策はしっかりしてもらいたい」との意見をいただいている。この他にも「付帯施設としてのグラウンドの人工芝化」「プールや武道場の設置」「給食センターをどのように設置するか」などの意見をいただいている。

プールについて、現在、上市町は水泳授業を外部委託しており、保護者からは概ね好評をいただいているものと捉えている。管理面や建設費用の面からもプールの設置は現在のところ考えていないが、新たに学校を建設された自治体の中には、住民施設として建設されているところもあり、民間運営とするなど工夫されている。民間が運営していくためには、圏域人口など引き受ける理由が必要になることから容易なことではないと思う。

武道場については町武道館が冷暖房を備えた改修をすでに終えており、授業数も考えると武道館を利用していただくという方向で進めて行きたい。

給食センターについては調理業務は基本的に外部委託したいと考えているが、町内1校での自校給食となるので、給食稼働率を考えると、単に学校給食のみの利用ではなく長期休業中の学童への給食提供なども含め検討したい。

「その他」として「教育・医療・福祉を総合的に検討していくことが

町の発展に繋がるのではないか」「来年度は教育審議会や地区説明会は開催されるのか。特に白萩西部、陽南、上市中央校区はどのような流れで統合に向かっていくのか」という質問もあった。このことについては、審議会からの答申を受けた段階で、学校教育審議会は一区切りとさせていただきたい。その後、年度内に地区別ではなく、町全体への説明会を開催する予定である。また、来年度は、新校舎の建設に向けた基本計画の作成に入りたいと考えており、現在内閣府に申請中の補助事業を活用し、概算 3,300 万円の調査費を 3 月補正予算に計上する予定である。

先行統合の 3 校については、既に各校長に統合に向けた交流と子どもたちへの配慮についてお願いをしている。保護者への説明については、学校と相談の上、方法や時期を検討する。

会長

先日の能登半島で被害を受けられた方もいた。ああいう災害にも対応できる校舎を考えていただかないといけないと感じた。折角の機会であり、全員から意見や審議会に出席しての感想などいただきたい。

委員①

これからの学校は今までの学校とは違うのかなと思う。誇れるような学校にするんだということに賛同している。以前、音杉小学校と上市小学校とが一緒になった時、全国からバス視察に来たことを記憶しているが、そのような学校にできればと思う。

委員②

上市町としての強みである自然が豊かで地域の繋がりがあることを生かした学校をつくるべきである。上市のよさを目立つような形でアピールし、町外の方にもこんな学校があるなら子どもを通わせたいと思うような学校にしていただきたい。子どもの頃に学んだチームプレイが大人になっても生かされると思うので、みんなでというような顔が分かる距離での教育ができる環境を整えてほしいと思う。

委員③

統合をきっかけに、地域が廃れるのではなく、大人も子どもも上市町全体を学んだり、大切にできるようになってくれればと思う。

委員④

三条市の大崎学園が印象的で、大きさも驚いたが、子どもたちがすごく楽しそうだった。大きな学校になると、子どもたちのコミュニケーション

を大事にした学校づくりが大事だと思う。地域との密着という部分を生かしてほしいという希望がある。能登の避難所に行った印象として、まずは学校、公民館へ避難ということが根強くある。統合しても、旧校舎は地域に大事なので、生かしていけるように進めてもらいたい。

委員⑤

統合の根本になっているのは「少子高齢化」にあると思う。公民館行事で、地域の方に話を聞いた時、3分の1が一人暮らしの高齢者ということになっている。子どもも数が減ってきているという中で、昔に比べると過保護になってきていると感じるが、子どもたちがすくすくと元気よく育ってくれることが大事だと思う。

委員⑤

改めて上市町にいる子どもたちにどんな教育が必要なのか、安心して子どもたちが学校に通える環境というのはどのような環境かということを考える機会を与えていただいたと思う。小学校1年生から中学校3年生まで切れ目のない学びの場や支援があることが今の子どもたちにとっては安心な学校になるということを感じている。統合をきっかけに切れ目のない町の魅力ある教育が進められていくことがいい方向かと思う。子どもたちや保護者の不安も感じるが、新しい学校ができるという魅力にワクワクし、友達が増えるとか自分から学ぼうとする気持ちが子どもたちにはすごく大事だと感じた。素敵な校舎ができて、その学びの空間を生かしていくには、教員の工夫が必要だと思う。子どもたちを育てていこうという意識を高めながら、やりがいをもって働けるような教員集団をつくること、子どもたちが安心して学べるようサポートしていくことが大切だと思う。

委員⑥

自然の中でのびのびと子どもたちが過ごし、毎日元気に楽しく行けるような学校になったらいいと思う。新しい学校のことはもちろんだが、廃校をどう活かしていくか、町民が増えるようなまちづくりも考えていただきたい。

委員⑦

目指していく理想はたくさん出たが、どこまで実現できるのかということと、今回の能登半島地震の中で、何よりも地域の繋がりが大切だったと聞いているので、そのことも含め今後の空き校舎の利用も注目していきたい。

委員⑧

陽南小と白萩西部小の統合を考えると、制服や体操服への補助金やいらなくなった物をいただくシステムがあると有難い。上市町は相談機関が親切、親身になってくれるという印象があるので、ずっと続いてほしい。子どもたちの将来の夢に向けて、バラエティに富んだ教育を受けられることが望ましい。

委員⑨

よい学校ができるという思いを持つとともに、学校だけで完結するものではないと思うので、学校の外側に子どもたちの拠り所となるような場をつくるなど、自分自身でも何ができるのだろうかと思う機会となった。

委員⑩

今回参加していろいろなことを考えさせられたと思う。学校に行けない子になるべく減ってほしいという保護者の思いがあり、学校の先生とも力を合わせて子どもたちを支えていかなければいけない。学校が統合されていくことで地域の特色、伝統はどうなっていくのか。子どもたちが楽しみにしている行事が大人の都合でなくなるというのは違うので話し合っていかなければと思う。義務教育学校の設立が住みよいまちづくりに結び付けばと願う。

委員⑪

答申の中で、新校舎はまちづくりの中心となる場所での建設と書いていただいたことを嬉しく思う。前町長が学校は地域の拠り所・要であり、学校を中心に地域がつながっているという話をされていた。学校を中心に町が発展するとなればよいと思う。実際にどんな校舎を造るかやまちづくりにつながる意見もあったが、次の段階で実現が可能か検討していただくことになると思うので、しっかりと見ていきたい。

委員⑫

複式学級をなるべく早く解消してほしいという思いがあり、令和8年度に陽南小と白萩西部小が上市中央小に統合するという事で意見がまとまり、保護者としては安心している。あと2年しかない中で子どもたちが閉校までを楽しい気持ちで過ごしていけることを考えていきたい。宿泊学習を一緒に行うなど2年間でいろいろな交流ができるよう、また制服のことなども考えてもらいたい。陽南小も白萩西部小も築30余年、学校としての機能がなくなったとしても、また何らかの形で使っていただきたい。

委員⑬

みなさん上市愛がすごいなと思う。上市町が栄えるような、人が集まってくるような町にどうしたらなっていくんだろうということが永遠のテーマだと思う。子どもたちが上市町から離れたくないという町に、もっともっと人が集まる町へと、子どもたち、またその子どもたちへとつながっていけばと思う。

委員⑭

いずれは小中一つの学校になるということから小学校6校の横の繋がりだけでなく、小中の縦の繋がりをしっかりしなければならぬと思う。町の中心地に人が集まる建物をぜひ造っていただきたい、富山県で一番、全国からも注目を浴びるような「箱」を造っていただきたいと思う。町が学校や子どもたちだけでなく先生方もサポートし、町民が一人一つずつ学校の役に立つ、そんなことを目指していけたらいいのではないかな。

委員⑮

この15年間で教育環境や学校のものの考え方は本当に変わったと思う。義務教育学校については、9年間一緒ということで外からの刺激や自分のモチベーションを上げる機会が少なくなると思うので、先生方に必要に応じて、活を入れていただきながら進んでもらいたい。子どもたちを外に離して、何人が帰って来てくれるのか、頑張っけて戻って来てくれる環境を整えなければならない。上市は自然があるというがその自然がどれだけ学校教育に生かされているのか疑問に思う。また、学校を建てる場所は大きく周りを見て、そこに居住する住民の生活環境も含めて考えていただきたい。

委員⑯

課題はたくさんあるが、親としては、子どもたちが新しい学校でのびのびと学ぶ姿を見たいので、そうなるように期待している。

委員⑰

なかなか人口減少という大きな壁をすぐには乗り越えられないと思うが、答申に書いてある通り、新しい学校を軸に素晴らしいまちづくりを進めて行くことで、50年、100年先にはきっと良い町になるのではないかなと思う。

会長

只今、委員の皆様からいただいた意見や感想については、今後の基本計

画策定にあたり参考または検討いただきたいと思う。皆様いろいろな思いを持っておられ、特に子どもたちにとっていい教育環境をどのようにつくっていくか考えていただいたが、それが答申案に反映されていると思う。答申案に「新しい学校を核に、『上市に住みたくなる魅力的な学校づくり、まちづくり』を行ってもらいたい」という文言が入っており、まさにその通りだと思う。学校をつくって子どもたちがしっかりと学べる環境を与えること、また上市が好きで戻ってきってもらうことを考えたとき、地域との繋がりや特色をどう維持しながら、学校をつくっていくか、各地域をどう振興させていくかという問題も、これから大きな課題となっていく。少子化をいかに食い止めていくのか、これからますます魅力的なまちづくりについて行政だけでなく、各地域で考えていってもらわないといけないが、ここに参加いただいた皆様が中心となって考えていただければと思う。

・答申の日程について

1月25日に笹田会長と岡部副会長より町長に提出していただくことにしたい。

副町長

みなさんには子どもたちのことを一生懸命に考えていただき、いろいろな声を聴かせていただいた。統合について不安もあったと思うが、意見としては前を向いてよい学校をつくっていこうということで共通理解ができたかと思う。これからは、私たち町側が、みなさんの思いを受け止め、できるだけ期待に沿えるよう、そして子どもたちが希望をもって学校に通えるよう頑張っていきたいと思う。本当にありがとうございました。

(5) 閉会

以上